

2023-24年度 朝岡会長テーマ -みんな 楽しく 仲良く そして未来へ-
第 3117 回例会 令和 5 年 9 月 26 日(火) 天気:晴 No.9

2023-24年度
RIテーマ



世界に希望を生み出そう



会長 / 朝岡 正 幹事 / 松田茂治

クラブ会報委員 金原健志 / 本田正則 / 大内基浩 / 宍戸秀隆

例会日:火曜日 12:30 例会場:西尾コンベンションホール

事務局:西尾市永楽町 3-45 西尾信用金庫中央支店内 204

TEL:0563-54-7770 FAX:0563-54-7050 URL:<https://www.nishio-rotary.org>

【本日のプログラム】

司 会 二宮英樹例会運営副委員長

斉 唱 「奉仕の理想」 食 事 魚 寅

スピーカー 西尾市教育委員会 文化財課 学芸員 上野 加耶子氏

「牧野富太郎 ～西尾とのつながり～」



【会長挨拶】



皆さん、牧野富太郎をご存知でしょうか？朝ドラを見ている方は分かるそうですが、私も知りませんでした。後ほど詳しく教えて頂けると幸いです。

今コロナが結構流行っていて、感染力の高い新しい型が出てきているという話もありますのでお気をつけください。学校ではインフルエンザが流行っているそうです。インフルエンザワクチンは通常流行る冬に向けて作る時期が決まっており、あまり早く流行るとワクチンが間に合いません。

先週はガバナー訪問でマイロータリーの話がありました。「情報は自分から取りにいく時代だ」と言っていました、マイロータリーに入ると色々な情報を見ることが出来ます。現状の登録率は17%、目標は60%とのことなので、改めて時間を設けてマイロータリーについてやり方などを教えて頂こうと思います。

カーボンニュートラルについて、スズキがインドでメタンガスを使って車を動かす取組みをしています。メタンガスは二酸化炭素よりも温室効果への影響が高く、温室効果ガスの約4%を占めているようで、メタンガスを減らすことも重要視されています。自分1人ではなかなか大変ですが、CO2を減らすことは重要なことなので、取り組んでいかなければいけないと思っています。

【委員会報告】

〈出席委員会〉本多 淳委員長

本日の出席数 53名

欠席数 15名

出席率 83.58%

〈スマイルボックス委員会〉谷崎直樹委員長

朝岡 正君 学芸員 上野加耶子様 今日は宜しくお願ひします。

松田茂治君 上野加耶子様 ようこそ西尾 RC へ。卓話楽しみにしています。

ガバナー訪問では親睦、例会運営の皆さん有難うございました。

本田正則君 上野加耶子さん素適な出会いに乾杯。

稲垣良次君 30年皆出席 有難うございます。健康に感謝です。

杉浦義浩君 上野加耶子様 本日の卓話楽しみにしています。

長男夫婦に第一子が9/22誕生しました。当家7代目、そして5人目の孫です。

本日は結婚記念日です。お花を有難うございました。

鳥山欽示君 本日65才前期高齢者1日目です。誕生日のお祝ひ有難うございました。

岩崎智一君 佐渡国際トライアスロン大会に3回目の出場し無事完走いたしました。皆様の支援のお陰です。心より感謝申し上げます。今後も日々精進します。皆様ありがとうございました。

小笠原正秀君 9/29に68才になります。29日は中秋の名月です。眺めながら誕生日を祝いたしたいと思います。

山崎周彌君 席が変わって新しい感じで嬉しい事です。

岩瀬正広君 昨日結婚記念のお花を頂きました。計算したら30年でした。よく頑張りました。

石川哲朗君 ロータリーメンバーといつも楽しく遊ばせてもらい感謝ばかりです。

〔卓話〕

西尾市教育委員会 文化財課 学芸員 上野 加耶子氏 「牧野富太郎 ～西尾とのつながり～」



牧野富太郎は高知県生まれで、幼少より植物に非常に興味を持ち、独学で植物の知識を身につけました。ドラマでも描かれていましたが、学歴は小学校中退という方ですが、熱心な植物研究者であったため、人生2回目の上京となった22歳のときに東京大学理学部植物学教室の出入りを許され、植物分類学の研究に本格的に打ち込むようになりました。富太郎は大変長生きで、94年の生涯において、新種など1500種類の植物を命名し、40万もの植物標本を収集し、日本の植物分類学の基礎を築きました。全国からの要望に応じて各地を巡り、植物を知る大切さを一般に広く伝え、植物知識の普及にも尽力しました。78歳で

牧野日本植物図鑑を刊行し、現在でも植物研究者や愛好家の必携書になっており、もしかしたら皆さんの家にも本があるかもしれません。

富太郎と西尾とのつながりについては植物標本の収集という点に注目します。40万もの植物標本を収集することは、富太郎1人の力ではとても叶いませんでした。これには地方研究者の協力があり、ここで西尾が関わってきます。地方研究者の1人に西尾の名倉閨一郎（ぎんいちろう）という植物研究者がいました。閨一郎は、ある学校の教師から植物標本の押し葉制作を教わり、それをきっかけに植物に興味を持つようになりました。自費で顕微鏡を買うなどして植物の勉強に励み、牧野富太郎に自分で採取した植物の標本を送って指導を受けていました。明治36年には県の水産試験場で重んじられ、海藻の研究にも力を注いだ人物です。愛知県の木としてハナノキが親しまれていますが、ハナノキが県内で自生しているのを初めて発見したのも名倉閨一郎でした。富太郎と閨一郎の交流は、閨一郎から標本を送って、富太郎が手紙で同定結果（鑑定してその植物が何であるかを突き止めた結果）を送るというものでした。その手紙は、現在も子孫の名倉家に残っています。富太郎からの手紙には、植物標本を送るにあたっての注意事項（植物の水分処理やサイズ、採取場所のメモ書き方法など）を非常に細かく丁寧に指導をしているものもありました。富太郎からの手紙には、閨一郎が送った標本の中におそらく新種のだろうと思われるものがあるから名前を付けた、という驚くべき内容のものもありました。植物の学術名は、属名（種類）と発見者・場所、名付けた著者名から付けられます。新種と思われる植物は、スノキ属の植物で、名倉閨一郎が見つけ、牧野富太郎が名付けたということが分かる名称が付けられていました。残念ながら、この植物は既に発見されていた植物だったことが判明したというお知らせが手紙で届いてしまいました。しかしながら、この植物はナガボナツハゼという、現在愛知県の絶滅危惧種に登録されている貴重な植物だったため、富太郎からの手紙には、「新発見ではありませんでしたが貴重な植物として発行する本に掲載します」と書かれていました。手紙は、標本の送付と同定結果のやり取りだけでなく、富太郎が愛知に行く際の植物採集のお誘いも手紙に残っていました。残っている手紙の内容から、この2人の交流は一方向的に教えるを乞うものではなく、閨一郎が送ったものを富太郎が研究に活かしたり、植物採集を誘い合ったり、研究の成果を報告し合うなどの間柄であったことが分かります。植物を愛する者同士、お互いに助け合う関係だったと言えます。富太郎と交流を持った人物が西尾に居たということで、朝ドラで有名になった牧野富太郎により親しみを持っていただけたら幸いですし、地元でもなかなか知られていない名倉閨一郎という熱心な植物研究者がいたことを知ってもらえたら嬉しいです。11月18日から岩瀬文庫で、牧野富太郎からの手紙15通と植物図鑑を展示する企画展示を開催する予定です。ぜひお越し頂ければと思います。

